

第14回みちのくウイルス塾講演予告…聴講のツボ

1. 東北大学名誉教授・宮城県病院管理者 菅村 和夫 先生:

特別企画 故・日沼頼夫先生追悼 「日本で発見された成人病 T 細胞白血病とその原因ウイルス」 この2月に亡くなられた日沼先生は、秋田県のご出身で東北大学で研究をスタートさせ、日本を代表するウイルス学者になりました。学問的に非常に厳しいことで有名で、多くの研究者に強い影響を与えました。菅村先生は、その先生に薫陶を受けたお弟子さんたちのまさに代表格の方です。日沼先生のウイルス学と人となり、聞く人に存分に伝えてくれることでしょう。

2. 愛知県がんセンター研究所感染腫瘍学部 室長 神田 輝 先生：「発見の興奮から半世紀～EB ウイルス研究で今起きていることウイルス」 最初のヒト腫瘍ウイルスとしてデビューし、その後誰にでも感染しているありふれたウイルスであることがわかった EB ウイルス。これが時に「がん」やリンパ腫などの病気を起こすのはなぜ？ 先生御自身が常日頃疑問に思っている「EB ウイルスのなぞ」について、お話ししてくれます。

3. 国立感染症研究所ウイルス第一部 第二室長 高崎 智彦 先生：「70年ぶりに再興したデング熱とは？ヒトスジシマ蚊って？」 なんと8年ぶりの登壇です。前回のお話もデングを含めた蚊媒介性ウイルスでしたが、それらは本邦では社会的にまだ無名でした。それが昨年に関心注目され始め、ときにパニック気味な報道も目に付くほどです。さあ、みなさん先生のお話をよく聞いて正しい知識を身につけましょう。「怖がり過ぎず、侮らず」です。

4. 山形厚生病院 院長 大原 義朗 先生：「忘れ去られていく風土病 ～野兎病って何？」 野兎(やと)病は、*Francisella tularensis* という細菌感染が腺ペスト類似の症状を引き起こす病気で東北地方の風土病でした。Q: 何で神経病原性ウイルス研究者の大原先生が、それに“ウイルス”塾で細菌？ A: この病気を日本で最初に報告し病原体を同定したのは、福島の開業医の先生でした。それが大原先生の御祖父、大原八郎博士です。先生直々の話を聞ける、まさに“Family History”、みちのく塾ならではの貴重な機会です。

5. 京都大学ウイルス研究所ヒトがんウイルス研究分野 教授 朝長 啓造 先生：「ボルナウイルス：進化を共にした内なるウイルス」 ボルナウイルスは、動物で脳脊髄膜炎を起こし、また細胞に潜伏感染し、一時期ヒトで精神疾患との関係も疑われたこともあります。その一方で、生物学的に非常に面白い存在です。先生は、ウイルスの遺伝子断片がまるでレトロウイルスのようにヒトのゲノムの中に内在化していることを突き止めました。さらにはそれがmRNAを発現しているといいます。それが宿主細胞でどのような意味を持つか、現在目が離せない分野です。

6. 国立感染症研究所ウイルス第二部 第一室長 片山 和彦 先生：「ノロウイルスって？ ～知っているようで知らない本当の姿」 冬、非常に大勢の人が短期間に罹る下痢症の原因ウイルスで、非常に少量で感染する高い感染効率ゆえの感染対策の難しさがあります。いまだこのウイルスは分離できていないものの、その研究はどんどん進んでいます。その第一人者である先生から、いろいろと面白い話が聞けそうです。お忙しい先生に2年前から登壇を交渉していましたが、今回やっと実現しました。

(以上、文責 西村)